

生物多様性豊かな大浦湾(奥)と米軍普天間飛行場の代替施設建設予定地の辺野古崎=3月16日、名護市辺野古上空から撮影



太古からの営み 生命育む海

辺野古崎・大浦湾

海底に広がる巨大なサンゴ群。天然のモスクが育つ海草藻場、時にクマノミがインキンチャクの中から顔を出す。米軍普天間飛行場の代替施設建設予定地となっている名護市辺野古崎周辺と大浦湾に8、9日の2日間潜った。陸に迫る深い入り江となっている大浦湾、山から栄養を運ぶ大浦川、汀間川が長い年月をかけて多種多様な生態系をつくり上げた。代替施設建設で揺れる海は、穏やかに従来の自然の営みを続けている。写真で大浦湾、辺野

古の海中の様子を紹介する。

(写真映像部・花城太、金良孝矢)



森のように広がるハマサンゴなどの群集=9日、名護市大浦湾の「チリビシ」、水深約15m



重なり合うように密集したハマサンゴなどの群集=8日、名護市大浦湾の水深約10m



インキンチャクに寄り集まってきた生活するムツムツの群集=8日、名護市大浦湾水深約6m



真っ赤なリュウキュウイソバナが神秘的な雰囲気を出す=9日、名護市大浦湾「チリビシのアオサンゴ群集」の水深約15m



最高10mになるというオシロイの仲間、マツモウ=8日、名護市大浦湾の水深約15m



海面に向かって成長するオシロイ。国際自然保護連合(IUCN)のレッドデータブック「絶滅危惧II類」に掲載されている=9日、名護市大浦湾「チリビシのアオサンゴ群集」の水深約15m



ジュゴンの餌にもなるヒルモの仲間=8日、名護市大浦湾の水深約15m



キャンプ・シュワブ周辺海域には天然のモスクが自生している=9日、名護市辺野古崎の水深約1.5m